



地域福祉のための情報誌

社協だより

幸せな社会



傾聴ボランティア養成研修

「聞く」姿勢を学ぶ…

～お話、聴かせていただきます～

関連記事 5ページ

もくじ

- P2 新年のご挨拶、共同募金助成団体募集
- P3 令和4年度事業評価、非常勤職員・保育士募集
- P4 市民後見人を紹介します（第2弾）
- P5 成年後見制度講演会開催結果、傾聴ボランティア養成研修開催結果
- P6 生活支援体制整備事業学習会開催結果、地域貢献・社会貢献のカタチ
- P7 寄付者報告、お知らせ
- P8 ボランティア掲示板



発行

社会福祉法人 江別市社会福祉協議会

2024



QRコードを読み取って
社協ホームページへ

江別市錦町14番地87 江別市総合社会福祉センター内

☎ 011-385-1234 Fax 011-385-1236

ホームページ <http://www.ebetsu-shyakyo.jp>

メール Social-Welfare@ebetsu-shyakyo.jp

社協だより「幸せな社会」は、1月・4月・7月・10月に発行しています。

「幸せな社会」は、点字版やCD(音声)版もあります(社協事務局までお問い合わせください)

1

月

No. 212

工藤 祐三



謹んで

新年のお慶びを
申し上げます



江別市共同募金委員会会長
まさよし

武田 正義

旧年中は、本会の活動に多くの方々より温かいご理解とご支援を賜りましたことに、心よりお礼申し上げます。

また、依然として新型コロナウィルス感染症による影響とインフルエンザの流行が懸念される中、昨年10月に実施いたしました赤い羽根共同募金活動にご協力いただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

さて、毎年12月に開始する「歳末たすけあい募金」を原資とした「歳末見舞金品贈呈事業」では、過去最大となつた昨年度の実績をさらに上回る申請件数となり、共同募金運動の意義を改めて感じる次第でございます。そして、このような社会情勢にこそ、共同募金運動を通じ、人と人とのつながりを大切にする心を育むことができる地域づくりにしたいと考えております。

本年も市民の皆さまのご理解とご協力を願い申し上げますとともに、幸せあふれる良い一年になりますよう心よりお祈り申しあげます。

このうち、地域社会の変容による孤独・孤立の問題や、社会情勢の変化がもたらす生活困窮課題が表面化し、本会では関係各所の皆様にお力添えをいただきながら、福祉の支援を必要とする人に対して生活相談や生計維持のための支援に努めてまいりました。

今後も、同様にお力添えをいただき、共に地域福祉活動の協働をお願いするとともに、新しい年が皆さんにとりまして、健やかで明るい年になりますよう心から祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

共同募金 ~ご協力ありがとうございます~

中間実績報告 (令和5年12月7日現在)

赤い羽根募金	4,266,047 円
歳末たすけあい募金	735,565 円

共同募金 助成団体募集

市内の福祉充実に寄与する
令和6年度福祉事業が対象

江別市共同募金委員会では、福祉活動を目的とする民間の福祉団体に必要な費用の一部を助成しています。

助成の対象は市内の福祉充実に寄与する令和6年度の福祉活動・事業です。詳しい募集内容は、社協のホームページをご確認ください。

・締切 令和6年1月16日(火)
・詳細 江別市共同募金委員会
☎ 3855-1234

第4期地域福祉実践計画の推進等を重点要望

昨年11月22日、社協正副会長が後藤市長を訪問し、令和6年度の社協事業への支援について要望書を提出しました。

要望内容は、愛のふれあい交流事業等の第4期地域福祉実践計画の推進、北光保育園等の猛暑対策、くらしサポートセンターえべつの体制強化、総合社会福祉センター施設整備について支援を要望しました。

市へ令和6年度予算要望書を提出



要望書提出

(左から江別市・後藤好人市長、社協・工藤祐三会長、中川雅志副会長)

令和4年度事業を評価

生活困窮者の生活再建や
コロナ禍で顕在化した
生活課題に向き合う
支援を実施

基本計画の主な内容		評価点
基本計画1	地域福祉に関する情報提供や包括的な相談体制による支援	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 広報誌の発行、生活困窮者自立支援のための「くらしサポートセンターえべつ」での相談事業の実施、成年後見実施機関の運営や法人後見の実施、生活福祉資金貸付など12事業 	3
基本計画2	ボランティア活動で進める福祉の環境づくり	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ボランティア活動の相談・登録・活動先紹介など5事業 	3
基本計画3	市民参加で進める地域での生活支援や交流活動の促進	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 愛のふれあい活動、共同募金運動への協力など4事業 	3
基本計画4	体験学習、研修による福祉意識の醸成	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ワークキャンプや学校での総合的な学習の時間への協力の2事業 	3
基本計画5	自立した生活を支援する福祉サービスの提供	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 除雪サービス、給食サービス、視覚障がい者へのガイドヘルパーの派遣、福祉機器の貸与や北光保育園の運営など7事業 	3
基本計画6	地域に信頼される社協運営のための組織づくり	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 行政との連携、職員の資質向上、総合社会福祉センターの運営など13事業 	3

評価方法：個別事業を5段階で評価した後、基本計画ごとに平均点を算出（四捨五入）したものを評価点としています。

評価点: 5→非常に評価できる 4→かなり評価できる 3→普通に評価できる
2→少し評価できる 1→ほとんど評価できない

社協の総務・地域福祉部会では、第4期地域福祉実践計画における令和4年度事業について事業評価を行いました。

では、くらしサポートセンターへつなぎ、返済負担を抱えながらも生活の立て直しができるよう必要に応じて家計改善支援事業、メンタルケアなどを通じて支援したことを高く評価しました。

一方、人と接したり、小さいを推進する活動は、前年度に引き続き実績は低迷しましたが、非接触型ボランティアの推進やボランティア団体間の連絡ツールとしてのICT活用といったウイズ口ナ時代に対応した新取り組みを評価し、「順調に推進している」としました。その結果、6つの基本計画

非常勤職員・保育士募集

非常勤職員・保育士募集

万4千1百円、時間外手当・通勤手当・期末手当支給、健康・厚生年金・雇用労災保険加入、有給休暇10日、その他の勤務条件は本会規程による。

給与・保険など（令和5年12月現在）初任給月額・
大学卒16万7千4百円、短大卒15万1千9百円、
高校卒14万3千8百円、（職歴加算有。昇給有）、期未手当、超過勤務手当、通勤手当支給、健厚生年年

。江別市社会福祉協議会事務局(錦町14番地87)。令和6年4月1日～令和7年3月31日※次年度更新の可能性有り。
業務内容 主に、生活に困窮する世帯からの相談支援に関する業務を担当するほか、地域福祉事業の補助及びパソコン操作による文書や名簿作成、窓口受付、電話対応等に従事。
与・保険など(令和5年12月現在) 給料月額16

応募資格	保育士資格を取得している方(取得見込も可)
勤務先、採用人数及び雇用期間	北光保育園(美原1445 。通年保育士 1人 。令和6年4月1日～令和 7年3月31日 ※次年度 更新の可能性有 業務内容 農村地域の子育 て支援の一環として運営 している保育園での保育 業務に従事。 。2～5歳児 10人程度の混 合クラスを1クラス担当

令和6年度採用の非常勤職員を募集します。事務局職員が丁寧に業務をサポートいたします。
ご応募をお待ちしていきます。

令和6年度採用の保育士を募集します。経験豊富な保育士が丁寧に業務をサポートします。ご応募をお待ちしています。

▼応募書類の提出・問合せ・応募先

[詳細](#)

江別市成年後見支援センター市民後見人を紹介します！

～安心した生活を送るための支援をしています～

第2弾



江別市成年後見支援センターでは、成年後見制度の利用者(被後見人等)が日常生活を安心して送れるよう支援する市民後見人を養成しています。

「市民後見人」とは、弁護士や司法書士などの資格をもたない親族以外の市民による成年後見人等です。

本シリーズ第2弾として、実際に市民後見人として活躍している氏家泰子さんに普段の活動で感じること等についてお話を伺いました。

Q. 市民後見人になったきっかけは？

A. 兄夫婦が認知症になり、二人で生活を維持するのは、もう無理ではないか、ということになりました。妹として、家の処分やお金の管理を手助けしようと思いましたが、その気持だけでは事は運ばず、この時に初めて成年後見制度を知りました。私は親族後見人となり、暗中模索しながら進めていました。

そのような時に、江別市で市民後見人の養成講座が開かれることがわかり、私が望んでいたのは、まさしくこれだと思い受講しました。

Q. 実際にどのような活動をしていますか？

A. 初めて被後見人の方とお会いするときは、少し緊張しますが、少しずつ受け入れてもらいたいと思いながら月一度の訪問をします。



うじいえ たいこ

氏家 泰子さん：児童厚生員として児童センターで27年勤務。平成27年開催の市民後見人養成講座を受講。

被後見人の方が高齢者施設などに入所されている場合は、施設職員の方と預けてあるお小遣いの収支を確認し、更にご本人の体調や最近のエピソードなど伺います。その後お部屋を訪れますが、ご本人とお話しする時このエピソードがとても役に立ちます。いつも1人で過ごされているお部屋に誰か来てお話しできることは、楽しいことではないかなと思います。

私は戦後生まれですが、携わってきた方々は困難な時代を乗り越えて今に至っています。その時代背景に思いを寄せながら、理解を深めたいと思っています。

実務に困ったときは社協担当者に聞きながら進めており心強いです。

Q. やりがいは？

A. 何の取り柄もない自分が、少しばかりのお手伝いが出来ることを嬉しく思います。

日々、私も老いていく中で、今経験していることは、これから道しるべにもなります。

氏家さんはこれまで、市民後見人として2名の方を個人で受任し、親身に最期までご支援いただきました。

今後とも市民後見人としてご活躍いただきたいと思います！

※用語説明

○成年後見制度…認知症や知的障がい、精神障がいによって物事を判断する能力が十分ではない方について、家庭裁判所に申立をすることで本人の権利を守る援助者(成年後見人等(後見人、保佐人、補助人))を選任し、本人を法律的に支援する制度です。

○市民後見人…市町村等が主催する市民後見人養成講座を受講し必要な知識を得た市民の中から、家庭裁判所が成年後見人等として選任した方です。

○成年後見制度講演会を開催

演題：司法書士による制度解説、事例解説を通して成年後見制度を学ぼう！
～40人以上の後見人に就任した司法書士の視点～

令和5年11月11日(土)、市民会館小ホールにて成年後見制度講演会を開催し、138名の市民が参加されました。

例年は、制度のしくみや活用方法を知るきっかけとして「制度を楽しく学ぶ」をテーマに開催していましたが、本年度は少し専門的、実務的な内容で開催しました。

講師の大桃司法書士からは、成年後見制度の概要、後見人等の役割、家庭裁判所への手続き方法等について、ご自身が後見人等として対応した事例をもとに解説いただきました。また、当協議会で取り扱った事例に対して法律の専門職並びに専門職後見人の立場から助言いただきました。

質疑応答の中では、後見人等を受任した際、トラブルを回避するには、ご本人(被後見人等)との関係性を良好に保つことや、関係機関との連携が重要とのお話をありました。



講 師

司法書士・土地家屋調査士
大桃 涼輔 氏

○第16期 傾聴ボランティア養成研修を開催

4年ぶりに傾聴ボランティア養成研修を開催し、24名の市民の方が受講されました。講師には合同会社うえるかむの池田ひろみ氏をお招きし、「傾聴の基本と心構え」・「『しっかりと聴いています』を伝えるポイント」・「相手の心に寄り添う傾聴」について講義いただき、グループワークを交えて理解を深めました。

また、傾聴するときのポイントを押さえたうえで、それぞれが傾聴とは何かを考えながら実践してほしいとの助言のほか、相手の気持ちにとことん寄り添って聴き切ることの大切さを繰り返しお話をいただきました。

受講者からは「3日間の研修を受けて、相手の言葉を否定しない、最後まで聴くという対応が重要だということを心に刻み込みました」、「人の話を聴くことで、どこまで相手を理解できるのか考える機会になりました。言葉の重要性に改めて気がつきました」などの感想が寄せられました。

研修修了者には、学んだ傾聴技術を活かし、今後の傾聴ボランティア活動において活躍されることを期待しています。



社協 佐藤事務局長から受講者全員に修了証が交付されました。

学習会 「じぶんのまちの移動手段

～運転免許返納後の社会参加を考える～」開催

生活支援体制整備事業では、いくつになつても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりに取り組んでいます。

高齢者の運転免許返納後の生活に関する不安の声が増えており、昨年度は「移動の自助と互助を考える」学習会と題し、全国の取組事例を学びました。その際、さらに市内の現状についても知りたいという声が寄せられたことから、今年度は江別市内における公共交通の活用や運転免許返納時に覚えておきたい情報を学ぶ「運転免許返納後の社会参加について考える」学習会を令和5年9月20日(水)に開催しました。

近々運転免許返納を考えている方や、日頃地域活動に参加されている方など65名の参加があり、改めて関心の高いテーマであることがうかがえました。

学習会の講師には、北海道中央バス(株)江別営業所の大関健太氏をお招きし、バスの活用方法についてお話しいただきました。写真や図を使つたわかりやすい説明に、参加者からは、「ICカードの使い方など、わからぬいでいたことが知れてよかったです」「これからバスに乗つて市内を回つてみたい」との感想が多数寄せられました。

＜参加者の声＞

- ・車の運転をやめ、歩ける範囲の中で生活しようとしていたが、この機会に移動手段の学習をしようと思い参加した。
- ・夏は自転車を使用しているが、冬はバスとなるので関心があった。
- ・運転免許返納後は、(自由にでかけることが難しくなり)楽しみが半減するのではと不安。
- ・自分の暮らす街が住みやすい街であるために、移動手段が多数あると良い。
- ・今後もこのような会に参加し、情報集めしたい。

地域貢献。 社会貢献のカタチ

社協は「地域に貢献したい」の
架け橋になります！



江別ロータリークラブ様
【車いす寄贈】



えべつカラオケ振興会様
【第8回チャリティーえべつカラオケ大会】



野幌料飲店組合様
【第17回チャリティー
野幌元気祭】



プロスピュート様
【ミュージケーション
音安心栖(オアシス)
in北海道】

損害保険・生命保険代理業



地域に密着した保険専門店

保険サービス・ジャパンエージェンシー

保険の無料相談実施中

【営業時間】平日9:00～18:00
定休日 土曜日・日曜日・祝日

商号：有限会社イー・エス・オフィス
〒069-0824 江別市東野幌本町19番地の1

0120-74-0433

江別の皆様とともに

地域の発展に貢献します



EPA

江別印刷業協同組合

事務局

〒067-0031 江別市元町32番地2 笹岡印刷株内
TEL・FAX (011) 389-6730

組合員	(有)ア・ノ 研究社	笹 岡 印 刷 (株)	(株)の っぽ ろ 印 刷
	(有)トラスティプリント	藤 塗 装 工 業 (株)	(有)山 田 印 章 印 刷
	ア ス カ 印 刷	（賛助会員）(有)くらしの新聞社	

貸付資金 社協では、各種貸付事業を行っています。貸付条件などの詳細はお問合せ下さい。【特別生活資金】燃料費など冬の生活費、限度額5万円、連帯保証人必要 【教育支援資金】高校入学などの入学金や授業料、民生委員による調査有、他制度利用を優先 【福祉金庫】一時的な生活困窮時の生活費、限度額4万円、連帯保証人必要

ボランティア掲示板

生活支援体制整備事業

江別市内の通いの場情報！地域の活動を紹介します

開催日時 基本第1・第3水曜日 14時00分～16時00分
※第2水曜日や第4水曜日に変更になる
こともあります。

場所 野幌公民館 2階 視聴覚室（野幌町13-6）

参加費 2,000円/月

持ち物 飲み物、筆記用具、楽譜を入れる物

連絡先 ☎090-1380-7680（講師・森川）

「楽しいコーラス『たんぽぽ』」は、令和6年1月17日から活動をスタートする新しい歌の教室です。

講師の森川智重さんと武山真実さんは、経験豊富な音楽の先生です。他にも、野幌公民館や野幌公会堂で、リズムにのせて身体作りや脳トレを行う「歌と楽しい健康教室」（毎週金曜日10:30～12:00）を開催しています。

今回新たに立ち上げた「楽しいコーラス『たんぽぽ』」では、合唱を楽しむことで、表情筋を鍛えたり、発声法や滑舌のトレーニングをしたりすることができます。また、お手玉やラップの芯を使ってリズムを取るなど、音楽を使ったさまざまな楽しい脳トレも実施予定です。

すでに、80歳代・90歳代の方々からも参加してみたいとの声が届いています。

まずは、お気軽に、見学・体験から参加してみませんか？

江別市ボランティア団体連絡会

ボランティア会員団体を紹介します

江別認知症の人の家族を支える会
(かけはしの会)

私たちの活動に賛同して頂ける会員を募集しております。お待ちしております。

☎・FAX 011-387-5657

「認知症」は昔、「ぼけ老人」と呼ばれ、この病気に対する正しい知識と理解がされない中で、ご家族の方は大変なご苦労をされてきました。そのご家族に少しでも力になり、寄り添う事が出来ればと、平成元年より活動を始め34年ほどになります。認知症は2025年には5人に1人に達すると推計されている身近な病気です。誤解や偏見が家族の介護負担や虐待といった事態を引き起こす要因にもなっています。

当会は、「出前講座」を通して啓発活動を行い「認知症」を知っていただく活動を進めています。今、小学生を対象に寸劇やDVDを作成し小学校を訪問する準備中です。

設立当初からの活動は「相談電話」で、悩みや愚痴などしっかりとお聞きしています。「家族の集い」では家族を対象に茶話会を行い、お互いの思いを話せる場を設けて専門職が相談にのっています。市の委託事業「やすらぎ支援」では、家族が一息付けるように家庭に出向き見守りと話し相手をしています。

広報編集委員会委員長
眞島 紀恵子

元編す江 こなね見の開ボく始ンもぼが う日達たのナい 待ま
に集く別今とて制安催ラなめテ活平治今にもの。状にて新
おの親の年でて、度心サンりたイ動常ま年と早姿特況紛イタシ
届おし福もすき市にれテまこアをにりは願くににが争ス
届け手み福祉「。て民がつま イすと 団中戻、よい平心ガ伝がラ
い伝や情報せ「。は体止り社うま安がザえ起エウクラ
たいすくをな。は大修がし協やすが痛地らき、とパライナ
ますと願か会。の切やるま会にも各もな実「たがはしづ
ます。おいり手「やが。は心制践成、江全く活動ボ中はナ
手「やが。强度を年老別道嬉強度を年老別道嬉

赤い羽根共同募金
は、社協だよりも
役立てられています

編集後記

